

いきいきと作業が出来る支援

利用者の意思を尊重し
作業の選択肢を増やし工賃アップにつなげる

セルプひの

目次

- 意思決定支援とは
- 現状と課題
- 実践報告
- 最後に



意思決定支援の3つの基本原則

1. 人は誰も意思決定できる能力があると
考えて支援すること。
2. 本人が意思決定するために実行可能な
あらゆる支援をすること。
3. 本人が不合理に見える決定をしたとしても
そのことをもって意思決定できないと
みなさないこと。

意思決定支援の3要素

- ・ **意思形成** → 複数の選択肢を本人が理解しやすいようにしたり傾聴する体制を整える。
- ・ **意思表示** → 本人が話しやすくなる環境を整え、決断を迫って焦らせないようにする。
- ・ **意思実現** → 本人が表明した意思を、できるだけ本人自身で実現してもらうようにする。



目次

- 意思決定支援とは
- 現状と課題
- 実践報告
- 最後に

AさんとNさん



Aさんについて...

- ・ 36歳（男性）
- ・ 支援区分5・A判定
- ・ 知的障害・難治性點頭てんかん
- ・ 早朝に発作が表れやすい。
まれに日中にも発作がある。
- ・ 着替え・清潔保持など身支度全般に
支援が必要。



Nさんについて...

- ・ 29歳（男性）
- ・ 支援区分なし・B判定
- ・ ダウン症・軽度心臓病
- ・ 集団での行動が苦手。
意思表示や行動に移すまでに
時間が掛かる。
- ・ 笑顔はほとんど無い。

Aさんの作業の様子



- ・木工作业を中心に取り組んでもらっている。
- ・集中力が乏しく新聞紙やメモ用紙に落書き。
- ・作業中の居眠りが多い。
- ・**おしゃべりが好き**で周囲の人に同じ内容を繰り返して話しかける。
- ・作業班のムードメーカーになる場合もある。
- ・バザーでは接客が上手。
- ・施設外作業にはほとんど参加していない。
→**作業内容や指示が理解できず**、目を離すとフラッと持ち場を離れてしまうため。

Nさんの作業の様子



- 木工作業を中心に取り組んでもらっている。
- 集団が苦手な2階の個別席で作業。
- 勝手に作業を中断して1階で休むことが多い。
- **他者との関りが極端に少ない。**自分から避ける。
- **会話は単語か返事のみ。または筆談で行う。**
- 好きな作業では時間いっぱい取り組める日もある。
- 昨年度から少しずつ施設外作業へ出られるようになりつつある。しかし対人関係に配慮が必要。

令和5年度当初の現状

- ・ ふたりとも作業に対する意欲が低い。
- ・ 1対1で職員が付き添い、話し掛けながらだと作業が取り組める。
- ・ **他者との意思疎通が難しい場面がある。**
- ・ 作業中の中抜け・居眠りなどが多く作業時間を引かれている。
- ・ Aさんは意思決定が必要な際に、**質問内容の理解が困難。**
- ・ Nさんは意思決定されるが、**意思表示が苦手。**

課題

- 本人が意思表示をするまでの時間を職員が待ちきれず意思決定を迫っていたので、**傾聴する環境作り**が必要。
- **コミュニケーション方法**を会話だけに限定せず、筆談などを取り入れてみる。
- Aさんは意思形成支援のため**理解しやすい説明**を心がける。
- Nさんは質問に対する反応（表情・態度）により意思決定はできているようなので、**意思表示に対する支援**が必要と考えた。

目次

- 意思決定支援とは
- 現状と課題
- 実践報告
- 最後に

Aさんの日常生活の様子

- 更衣や排泄後の清潔保持などひとつずつの行動に対し声掛けが必要。
- 長い言葉での作業指示などは伝わりにくい。
- 短く「〇〇しましょう」と伝わりやすい。
- 作業では集中力が長時間持続しない。

Aさん 理解しやすい説明

簡単な日常会話はできる。



質問内容は簡単・簡潔にする。



質問に対する回答を急かさず待つ。



意思形成がしやすくなるかな？

Aさん 理解しやすい説明例

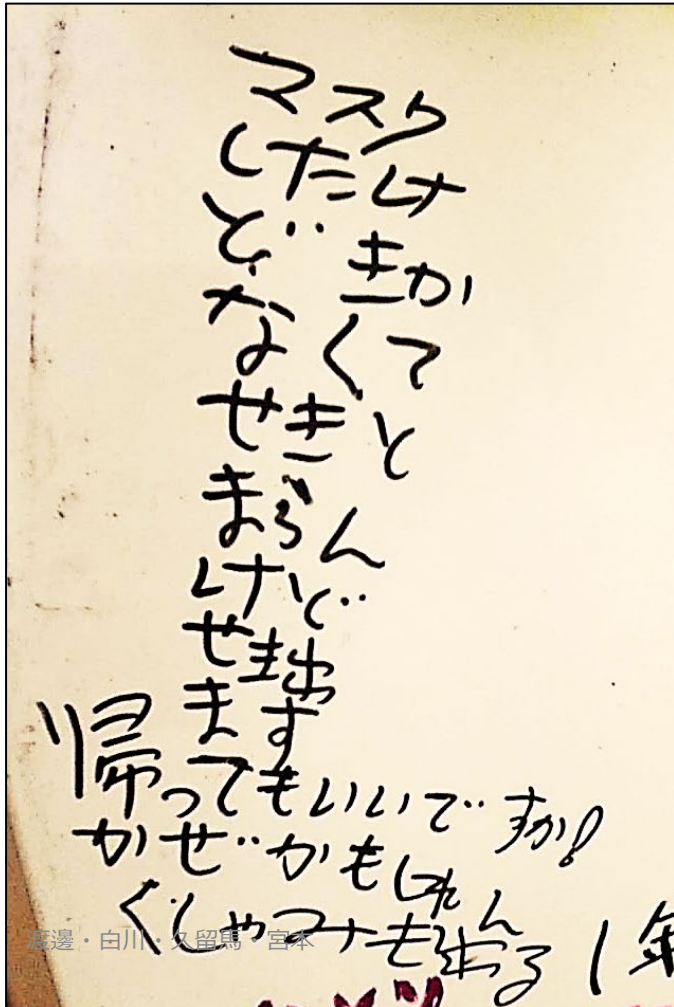
- 「次は何をしますか？」
- 「AとBどちらの作業がいいですか？」
- 「これから〇〇しましょう」
- 「この中から選んでください」

Aさんの実践結果

- 清潔保持はかわらず見守りと声掛けが必要。
更衣や排便後の処理など改善がみられなかった。
- 職員が隣について声かけをしながらだと作業に集中できた。
※木工中の落書きがほぼ無くなった。
- 不合理な意思決定をされた場合に、他者から指摘を受けて立腹したり不機嫌になることがあった。



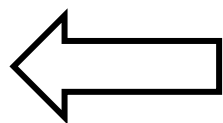
Nさんとの筆談



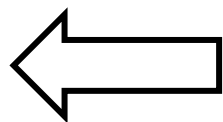
- 作業予定のホワイトボード裏にこっそり自分の思いを書いていた。

【マスクしたけどきかなくて
せきとまらんけどせき出ます
帰ってもいいですか！
かぜかもしれん
くしゃみも出る】

傾聴する環境作り



- ・ 静かに木工作業ができる個別の席。
- ・ 周囲をあまり気にせず会話ができる。
- ・ 職員の配置によっては所在確認が難しいこともある。



会話のきっかけ

- ・ うどんが好きなことが判明し、マンダリン分場のうどんを食べに行くことで会話が少しずつ増えた。
【食事の予定や食べたいメニューの確認について】

Nさんの実践結果

- 筆談は自然と無くなり、ほぼ会話で意思疎通が出来るようになった。
- 以前よりも施設外就労への参加回数が増えた。
- 職員、利用者との関係性の改善がみられた。
- 作業室の席替えをして、個別対応が解消されつつある。

少しずつ作業に参加ができるようになる

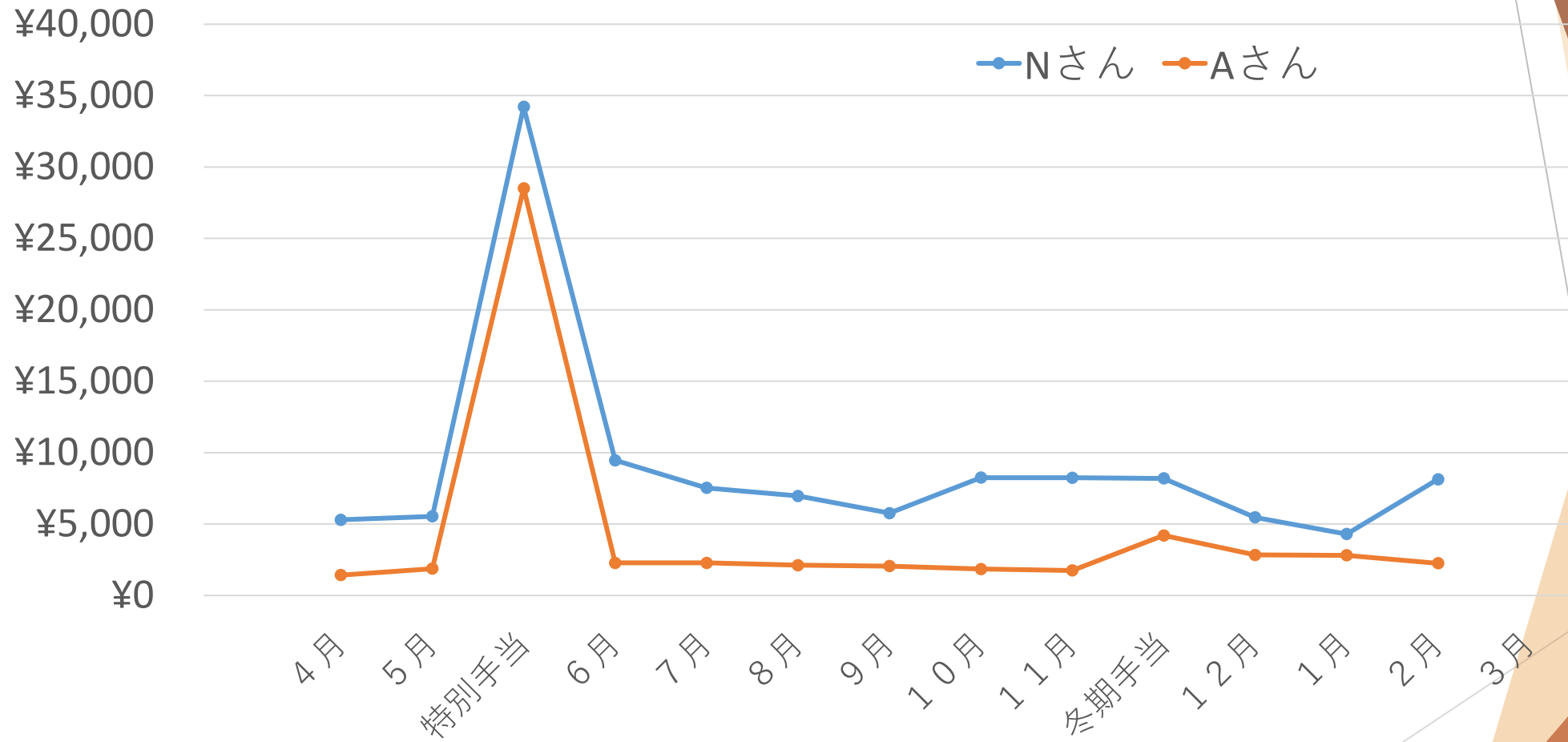




3月から作業の席替えをした



令和5年度工賃グラフ



Aさんの変化

- ・ 選択肢から選んだり、理解しやすい質問をすることにより意思形成はしやすくなった様子。
しかし、なかなか意思表示・意思実現までが難しい。
- ・ 「〇〇しましょう」と伝えると「わかってます！」と不機嫌になりやすい。指示を出されることを嫌がる。
- ・ おしどりバザーではとても上手に接客をされる。
- ・ 更衣の仕方など間違えるが、やろうとするようになった。

Nさんの変化

- ・ 事業所でも私生活でも会話が増え、表情豊かになった。
- ・ 以前よりも作業意欲が向上した。
※ 途中抜けが減りつつある
- ・ 通院予定など自分から伝えてくれるようになった。
- ・ 初対面の人・病院でも会話ができるようになった。
- ・ 施設外就労回数が前年度 15 回から今年度は 50 回以上にまで増えた。

目次

- 意思決定支援とは
- 現状と課題
- 実践報告
- 最後に

意思決定支援を実践してみても

障がい者に対する支援ではなく全ての人に対することだと感じた。
職員・家族・地域など様々な人に意思があり日常的に意思決定をしている。

私たち職員でも意思決定をする場面で迷ったり不安になることもあるし、自分の意思とは異なる考えを押し付けられると不愉快に感じます。利用者さん達はそれ以上に意思決定に対する不自由さを持っているのではないかと考えるようになった。

今後の意思決定支援で大切にしたいこと

- 相手の意思を否定せず、まずは傾聴をする。
- コミュニケーションを楽しむ。
- 意思実現へ向けた支援を個人ではなくチームで対応する。
- もし間違った意思決定をして後悔をされても責めない。
- ただし命に関わることや事件・事故につながる意思決定は全力で止めます。

本当に最後です...

どのチームを最優秀賞に選んでも
だれも恨みません。
チーム セルプひのは
審査員 皆さまの
意思決定を尊重します。

ご清聴ありがとうございました。